



京都 YWCA

9 2021



古都に咲いて100年

東北・北海道地区学校 YWCA カンファレンスでの出前ワークショップ実施報告 ユース同士の出会いが YWCA のめざすリーダーシップを育む

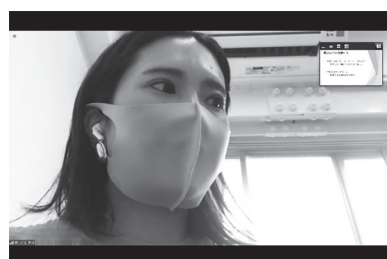
2017 年度から 4 年間、京都 YWCA は他の 4 市の地域 YWCA と共に、会員のリーダーシップ養成に取り組んできました。その過程で、ユースによるユース自身のための活動が生まれ活発化してきたことは当紙で度々紹介されています。京都 YWCA のユースは、この夏、学校 YWCA のカンファレンスでワークショップを行いました。勉強会や活動を通して蓄積された変革の種を、より若い世代の仲間に手渡す機会になったようです。

コロナ禍での変化がユースの出会いを促進

京都 YWCA では 2019 年秋より「若い女性の変革をもたらすリーダーシップのための『Rise Up ガイド』勉強会」、2020 年 2 月より勉強会で学んだことを基盤にして、近隣中学校・高等学校への出前ワークショップに取り組んできました。メンバーが学校を訪問する形で 2 回のワークショップを終えたところで、新型コロナウイルス感染症パンデミックがやってきました。対面が制限される中で急速に発達したオンラインコミュニケーションツールを味方につけたユースたちは、「やってみよう!」というアイデアを形にしていきました。現在ユース委員会の活動に関わるユースメンバーの多くが、京都以外の在住者です。

学校 YWCA の先にあるもの

世界に広がる YWCA ですが、日本では京都を含めた 24 の地域 YWCA に加え、37 の中学・高等学校 YWCA がそれぞれに特色ある活動しています。学校 YWCA は、毎夏各地区の、三年に一度は全国カンファレンスを開催し、人権、平和、環境などさまざまなテーマで学び、考え、交流しています。今年度東北・北海道地区のカンファレンスは 8 月 4 日、参加

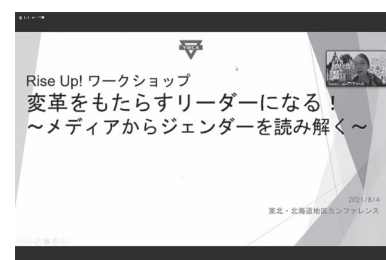


これまでの経験を活かしてワークショップを進めます

各校をオンラインでつないで「平和」をテーマに実施されました。

開会の礼拝、各学校の活動紹介、テーマである平和についての学びの発表、OG からの講話に続き、

京都 YWCA ユース委員会の「ワークショップ・フォー・スクールビジット」のメンバーが「メディアとジェンダー」をテーマにワークショップを担いました。



オンラインで行われた中・高校生に向けてのワークショップ

各メディアで日常的に目にする広報素材をジェンダー視点で見ると、隠されていたメッセージが見えてきます。ファシリテーターのガイドによって、今まで「当たり前」だと思っていたことが、いろいろな角度で見ることができることを生徒たちに気付かせてくれます。自分の中での発見や疑問、感想やもやもやとした思いも、グループワークで言葉にしてみます。そこで大切にされるのは「自分」です。他人の目や美しさに敏感に反応する思春期の中・高校生たちに、社会に蔓延している画一的な美意識は、その背景にステレオタイプのジェンダー論や、性というものを消費物として扱う社会的な課題があることに気付いてもらうことで、自分も自分以外の人も制限されない生き方について考えるきっかけが与えられたことでしょう。

日頃同世代以外の関わりが多いとは言えないティーンエイジャーにとって、先生でも親でも学校の先輩でもない地域 YWCA のユースは、数年後の自分の姿と重ねることが出来る存在だったことでしょう。学校という社会の先にあるもの、それを見つけることができる地域 YWCA が身近にあることを感じて欲しいと願っています。

(別所加恵)

2年目を迎えたあじさい保育園

YWCAらしさが活かされる保育園をめざして

昨年4月に京都YWCAの保育園が開園し、この春無事に2年目を迎えることができました。初めて出会う園児たちや先生たち。それぞれ違う経験をしてきた人たちがひとつの「あじさい保育園」を作り上げるのは簡単なことではありませんでした。一方、京都YWCAは100年近い歴史を持つ団体です。その京都YWCAらしさをどのように保育に取り入れていくかも課題でした。それは、YWCAの会員との出会いを重ねることによって培われるものだと思います。

そこで、長年活動続けてきた京都YWCAの「親子ライブラリー」の人たちが定期的に絵本の読み語りをしたり、リズム遊びをYWCAで経験を重ねてきた会員が担当しました。また、幼児を対象にした英語で遊ぶ時間もYWCAで教えてきた先生にお願いしました。会員が中心となって「子どもフェスタ」を催した際には、地域の親子とともに保育園児の親子も多数参加してくださり、小さい園児たちが小学生に混じって、絵や染色や音楽を楽しんだり、ワークショップで発言したりしていました。このようにして、1年目は少しずつYWCAの日ごろの活動と保育園をつないでいきました。

2年目に入った今年度は、一つの園を支えるスタッフとして先生たちの絆が深まり、園舎の各階毎に自然に協力し合う姿が当たり前になりました。YWCAの会員活動とも安定した結びつきができてきたように思います。親子ライブラリーの読み語りに子どもたちは毎回聞き入り、問いかけに答える姿が見られます。英語で遊ぶ時間も、今年度は対象園児が増え、賑やかに過ごしています。昨年度から続く民族楽器のワークショップは、どの年齢の子どもたちも全身で音を楽しんでいます。9月からは幼児対象に韓国文化に触れるプログラムも予定しています。

保育園のお迎えの際には、本館に立ち寄ってロビーショップで買い物をされる保護者の姿も見受けられます。あじさい保育園が別のものとして存在するのではなく、少しずつ京都YWCAとして共に存在するようになってきていると感じる今日この頃です。

(安藤いづみ)



絵本に夢中の子どもたち

多文化ルーツの子どものための学習・進学支援 「多文化子どもプログラム」の子どもたち

4月、新学期が始まりました。中学3年生が新高校生になり、それぞれの高校の真新しい制服を誇らしげに見せてくれました。小学生たちもびっくりするほど身長が伸びて大きくなっていました。新高校生は受験を経験して勉強するんだという態度がしっかり身についており、到着するなり教科書を広げて準備万端。小学生は早めに来てテーブルを並べ、椅子を揃えて使用する部屋の準備をしてくれます。そして自分たちで決めたスケジュールをきちんと守るようになっていきます。まあ、なんと成長してくれたことか！

子どもたちは日本に来て初めて学校に行き、わからない言葉が頭の上を通り過ぎて、そしてサイレントペリオッド（沈黙の時期）を乗り越えてきました。言われたことはわかるけどどう言い返したらいいのか……。そんなことは今はもうはるか昔のことです。それでも、日常会話は全く問題がなくても、学習のための十分な日本語の習得にはもう少し時間がかかりますし、学校の勉強や宿題はこなしていかなければなりません。

それよりも難しいのは人とのつきあい方でしょうか。今このプログラムには7人の大学生が参加しており、子どもたちを優しく受け止めてくれています。友達でもなく大人でもな

いが子どもたちに必要な人間関係を学ぶ実践の場になっています。

新しい子どもたちも入ってきました。夏休みに入り、瀬戸内海の無人島での子どもキャンプや野球観戦の予定に、子どもたちの目が輝いています。もちろん週1～2回の通常の勉強もやります。皆様のご支援、本当

にありがとうございます。
(富田京子)



夏休みプログラムの様子

以上のプログラムは皆様からの進学支援ご寄付と、以下の助成金により実施しています。

- 三菱財団×中央共同募金会 ～新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する～ 外国にルーツがある人々への支援活動応援助成
- 認定NPO法人日本都市計画家協会(JSURP) 休眠預金等活用事業 新型コロナウイルス対応緊急支援助成「外国人と共に暮らし支え合う地域社会の形成～支え合いを豊かさにつなげるまちづくり」

オンラインイベント「私の防災グッズ」 ～「防災」を自分事として考えるために～



平和・環境活動委員会主催のオンラインイベント「私の防災グッズ」は、防災を他人事ではなく自分事として感じるために、どんな防災準備をしているかを紹介し合おうと企画し、7月22日に開催しました。参加者のうち数名が自分が準備しているグッズを簡単な説明とともに披露しましたが、今現在全く準備をしていないという方たちもいました。紹介されたグッズの中でいいなと思ったのは「キャリアザサン」という折り畳み式で持ち運びも楽な太陽光ランタンや乾電池式充電器などです。電気が使えない状況は想像することさえ怖いことですが、電気がなくては生きていけない生活をしている私たちには必須のグッズだと思いました。

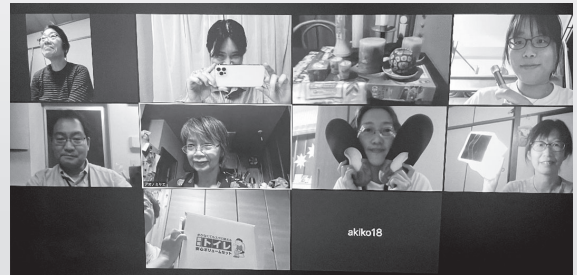
私たちが活動する京都 YWCA の建物を、災害時の「炊き出し」の場にすることも必要ではないかという意見も出て、なるほど確かにそういうことも考えて体制を作っていく活動もありだと思いました。

今回は防災に役立つと言われる「野外キャンプ」の企画をしたいと考えています。参加者の一人で、去年開催したイベント「防災を考える」で講師をしてくださった太田興さんから私たちにある宿題を出してもらいました。それは「1週間電気または水道なしの生活をする」という難題で、やる意味はかなりあるなと思いつつも、「宿題をやりとげる人はいるのか?！」という、ワクワクも与えられたひとときとなりました。

(木戸さやか)

日頃からの近隣との関係も大事

また防災グッズを実際使うことになる前に、突然襲いかかる地震などからまずは命を守らなければいけないことや、参加者の中には一人暮らしの女性がいて、隣近所の人とは交流もないので、災害時に助け合えるのかという不安の声もでました。私自身は幸い近所に親しくしている友人が数名いるのと、町内会の役員をしていることもあり、親しくなくても近所に住む人の名前と顔はお互いにわかっていることは心強いです。



それぞれに自分の防災グッズを披露!



シリーズ—— 京都 YWCA 100 年の歩み (4)

1974 年～1997 年——ある会員の思い出——

「希求—21 世紀につなぐ (1974 年から 1997 年度活動の記録)」は、75 周年記念誌として 1998 年 7 月に上梓された。一会員として当時の思い出を語ることをお許し願いたい。

「今、皆さんは平和だと思っていますか? 戦争状態にないだけで、平和といえるでしょうか?」こんな問いかけの言葉を受けたのは、参加したキャンプでの朝の集いの中だった。中学生の私には、新鮮というより衝撃だった。

私は、1970 年に年少会員になり、以来シニアになった今も会員でいる。中高生向けのプログラム「国際パーティ」を機に、スプリングスクールやキャンプに参加し、グループのメンバーになった。当時私たちは、しらけ世代と呼ばれた。無気力、無関心、無責任の三無主義の風潮の中にいた。ところが YWCA では、自分たちが興味と関心のあることを計画から参加することができた。「自分で選んで」参加し、多くの経験や人との交わりがあった。サポートは大学生リーダーが行い、職員や大人は安全を保証し、意見や感想を尊重し、見守ってくださった。新館(現在の本館)や旧館(サマリア館)、ホールが「活動場所」だった。学校や家庭以外の「心の居場所、社会への窓口」であった。

京都の地に YWCA という種がまかれて 50 年ほどが経過し、新会館建設から 3 年が経過していた頃だ。ノンクリスチャンでも同等な会員になれるオープンメンバーシップとなり、日本 YWCA の掲げた運動の強調点「『核』否定の思想に立つ」に関して、どう広げて根付かせるかに力が注がれていた時代ということになる。

YWCA 観は各々の入り口によってさまざまだろうが、私の場合は、「核」否定の思想は原爆・原発を操ろうとする人間の、「畏れ」を知らぬ尊大な行いに対しての強い警告であると聞き、同じ根を持つ社会で引き起こされているさまざまな問題に目が開かされていった。

8 月の平和を求める集会、市民が描いた原爆絵画展、12・8 (開戦日) 集会、4・29 天皇誕生日、2・11 集会などなど平和を求め続けるためのさまざまなかたちのプログラムや活動が繰り返し展開された。

(弘中奈都子)



思い出多いキャンプ

今後のプログラム

◎京都 YWCA 親子ライブラリー 20 周年記念イベント
tupera tupera 絵本ライブ

京都 YWCA 親子ライブラリーは 20 歳を迎えました！そのお祝いに絵本ライブを開催します。大人気のクリエイティブ・ユニット tupera tupera (ツペラツペラ)さんをゲストに、おとも子どもも絵本をたっぷり楽しむひと時を過ごしましょう♪

日 時：2021 年 10 月 17 日 (日) 開演 13:30 (受付 13:00～)

場 所：こどもみらい館 4 階 (京都市中京区間之町竹屋町下る)

参加費：おとな 1,000 円、子ども (3 歳以上) 500 円

*3 歳未満の子どもはおとなと同席で入場可

定 員：80 名 (先着順)

*予約が必要となります。詳細はチラシ、HP をご覧ください！

「京都 YWCA 100 周年記念募金」
へのご協力をお願い

京都 YWCA は 2023 年に 100 周年を迎えます。女性の社会的立場が弱かった戦前から、キリスト教を基盤にして女性を支援する事業・活動を推進してまいりました。現在、年齢や文化的背景の異なる人々が出会い、協働する「多世代・多文化ふれあいコミュニティづくり」事業を推進しています。

この歩みをさらに前進させるために、100 周年記念募金を実施いたします。

ご寄付は以下の目的に充てられます。皆さまのご支援をお願い申し上げます。

●担い手育成・次世代育成のために

社会貢献活動を支えていく人材、未来を担う人材を育成します。

●保育環境の向上のために

2020 年 4 月に開園した京都 YWCA あじさい保育園の保育環境を向上させていきます。

●W・M・ヴォーリズ設計「サマリア館」の補修のために

1936 年に建設された歴史的価値をもつ木造建物サマリア館を次世代に引き渡していきます。

●歴史を未来に引き継いでいくために

記録資料のアーカイブ化、100 周年記念誌の製作などを行います。

目 標 額：1,000 万円

募集期間：2021 年 4 月～2024 年 3 月

募 金 額：個人 1 口 3,000 円

団体・企業 1 口 10,000 円



郵便振替 01080-9-1566

加入者名 公益財団法人京都 YWCA

その他の京都 YWCA へのご寄付の詳細は事務所に問い合わせてください。か、ホームページをご覧ください。

<http://kyoto.ywca.or.jp/support>

おススメです！



映画紹介『アイヌモシリ』2020 年公開
(監督・脚本：福永壮志)

物語の主人公は阿寒湖の近くに住む少年、カント。本作は、アイヌをルーツにもつ彼を通して、今を生きるアイヌの人びとの世界に触れることができる映画である。小説『熱源』、漫画『ゴールデンカムイ』といった作品で近年注目されているアイヌ文化。だが、この映画で描かれたのは文化だけではない。イオマンテ (子熊を神の国であるカムイモシリへ送る儀式) を通して見えるのは、消えたアイヌ文化やアイヌとして生きたいと願うアイヌの人々の姿だけではない。そこからは、彼ら少数民族を「日本人」として同化してきた和人、つまり私たち自身の無関心と無知の暴力をも感じる。主人公カント役を演じたアイヌの少年は言う。自分たちの文化だけではなく、存在を知ってほしいと。

ご協力ありがとうございました

2021年6月1日から7月31日 寄付者一覧(敬称略、順不同)

一般寄付

宮武美知子、山本知恵、浅野献一

各指定寄付

*100 周年募金

伊東真代、井原圭子、荒垣加津子、
児玉寿子、小池しをり、上村愈巳子、
斉藤洋子、浅野久代、中村信博、
中村美智子、中村和雄、筒井奈都子、
北村保子、木下和江、有田佳子、匿名
福島 YWCA、
日本キリスト教団京都上賀茂教会、
株田中工務店

*居場所委員会

宮武美知子、文田則子、木戸さやか

*多文化共生委員会

安藤いづみ、宮武美知子、小池しをり

*APT

安藤いづみ、田中康司、田中順子、
筒井奈都子、上内鏡子、菅原充子、
西原美那子、浅野献一、村上ヨシ子

*保育園

横川宏美、浅野献一、安藤いづみ

*自立援助ホーム「カルーナ」

井上里佳、臼井一美、筒井奈都子、
浜田進士、井上里佳、弘中奈都子、
齋藤常子、御前明美、横川宏美、
上村愈巳子、山本知恵、井上依子、
桑畑祐治

日本聖公会桃山キリスト教会婦人会

*賛助費

窪田左知己、臼井一美



賛助員を募集しています！

京都 YWCA を継続的に支えていただく賛助員を募集しています。

賛助員にはニュースレター、イベント案内などをお送りします。

年間 1 口 5,000 円 (個人)、10,000 円 (法人)

7・8月／理事会報告

- 本館ロビーにてリサイクルショップを開催中 (衣服は夏物中心)。
- 7/27：夏休みの小学生向け「えいごであそぼう」を実施。
- 7/30：京都 YWCA あじさい保育園で、園児対象にロビン・ロイドさんの民族音楽ワークショップを実施。
- 京都 YWCA のオリジナルグッズとして、あじさい模様の T シャツ

の発売を開始した。

(素材は綿 100%、デザインは 2 種類、地色は 6 色と 4 色)

- 8/1：2020 年度の事業を報告する新しい形式の事業報告書を発行。
- 8/1：京都 YWCA 自立援助ホーム「カルーナ」のカルーナニュース 13 号を発行。

K Y O T O Y W C A No.564 2021 年 9 月号 (9月1日発行)

発行人：上村愈巳子

発行所：公益財団法人京都 YWCA

〒602-8019

京都市上京区室町通水上ル近衛町44

電 話：(075) 431-0351

F A X：(075) 431-0352

e-mail：office@kyoto.ywca.or.jp

H P：http://kyoto.ywca.or.jp

郵便振替：01080-9-1566

口座名義：(公財) 京都 YWCA

定 価：1 部 50 円

発 行：奇数月 1 日発行